

開催日	講座タイトル	講演者
6月 24日	としまコミュニティ大学① ヨーロッパの古城と宮殿ードイツ・オーストリア編ー	藤井 信行 (観光文化学科教授)
7月 17日	日本文化学科公開講座① 民俗学で考える動植物の見方 心理相談センター公開講座 子育ての“日常”と“まさか”の時 ①子どもを持つこと、育てること ②災害時の心のケア	特別講師 高木 大祐氏 (成城大学民俗学研究所/我孫子市杉村楚人冠記念館) 蓮見 元子 (心理学科教授) 簗下 成子 (心理学科教授/心理相談センター長)
9月 16日	川村英文学会特別講演 マンガとシェイクスピア?	特別講師 吉原ゆかり氏 (筑波大学准教授)
10月 1日	日本文化学科公開講座② いまをみつめる民俗学 一年中行事・民話・都市伝説ー	特別講師 飯倉 義之氏 (國學院大學准教授)
7日	公開講座2017 知の旅人ーIntellectual Journeyー① ①光源氏の行方をたどって ②カンタベリー物語を声に出して読もう	千野 裕子 (日本文化学科講師) ウィリアム・キスチャック (国際英語学科教授)
14日	公開講座2017 知の旅人ーIntellectual Journeyー② ③変わりゆくドイツの小学校教科書ー協同の学びを巡ってー ④南米大陸へのフライト	中国 有希 (史学科講師) 寺本 久男 (観光文化学科教授)
21日	公開講座2017 知の旅人ーIntellectual Journeyー③ ⑤知と文化のアフリカ ⑥カナダ、多文化教育の現在	石川 薫 (特任教授) 矢田 訓子 (児童教育学科准教授)
28日	公開講座2017 知の旅人ーIntellectual Journeyー④ ⑧漢字、その旅の軌跡	高津 純也 (史学科教授)
28日	としまコミュニティ大学② 温泉の不思議ーこれだけは知っておきたい!? 温泉の基礎知識ー	小堀 貴亮 (観光文化学科准教授)
11月 3日	公開講座2017 知の旅人ーIntellectual Journeyー⑤ ⑦世界の温泉とその魅力ー文化としての温泉とその効用ー	小堀 貴亮 (観光文化学科准教授)
11月 11日	としまコミュニティ大学③ ヨーロッパで「心の病」の観念はどう変遷してきたか アメリカ大統領のイメージ戦略	シャーロット・ゴフ (国際英語学科助教) 倉林 直子 (国際英語学科講師)
11日	〈小学生とその保護者対象講座〉 親子でキッチン・ワクワクおにぎり	生活文化学科一同 後援: 全国栄養士養成施設協会

… 目白キャンパス

… 我孫子キャンパス

民俗学の魅力——公開講座報告

日本文化学科 及川 祥平

日本文化学科では、学科での研究・教育内容を一般に発信すべく、独自の公開講座を開催しています。今年度のテーマは「民俗学」。民俗学は本学科で専攻することのできる分野のひとつで、日本の生活文化を研究する学問です。

そのような民俗学の意義と魅力に触れていただくことを目的に、今年度は7月および10月の2回にわたって、学界で活躍中の研究者を学外から招き、研究成果をお示しいただきました。

7月にご登壇いただいた高木大祐先生(成城大学民俗学研究所研究員/我孫子市杉村楚人冠記念館職員)からは「民俗学で考える動植物の見方」と題し、動物・植物への供養文化について論じていただき、私たちの「命」への眼差しを考察していただきました。

10月にご登壇の飯倉義之先生(國學院大學文学部准教授)からは、現代社会を理解する学問としての民俗学にどのような可能性があるかを、恵方巻等の年中行事や都市伝説を取り上げながら論じていただきました。

両日も多くの市民の皆さまにご出席いただいた上、本学学生の参加も多く、活発な質疑応答が交わされました。学生たちにとっては学外の研究者の議論に触れる、得難い機会となったようです。



花時計 vol.39

Kawamura Gakuen Woman's University

2017
年度



第50回日本女子オープンゴルフ選手権(我孫子ゴルフ倶楽部)“あびこ魅力発信ブース”販売ボランティア

特集 ボランティアー今年度、ボランティアセンターを開設しました!ー

学生&教員のボランティアあれこれ	p.02	退職教員・名誉教授	p.13
学科&大学院のTopics of the year	p.05	BOOKS 新刊紹介	p.13
研究棟の窓辺にて ~Teachers' Essays~	p.10	平成29年度年間行事	p.14
新任教員紹介	p.12	公開講座・講演会一覧	p.16

花時計

第39号 (2017年度)
発行日/平成30年3月1日
発行/川村学園女子大学
編集/広報委員会
〒270-1138
千葉県我孫子市下ヶ戸1133番地
TEL 04-7183-0111 (代表)
URL <http://www.kgwu.ac.jp/>

大学ホームページ



大学ブログ



我孫子キャンパス

〒270-1138 千葉県我孫子市下ヶ戸1133番地
Tel:04-7183-0111 (代表)

目白キャンパス

〒171-0031 東京都豊島区目白3丁目1番19号
Tel:03-3951-0111 (代表)

川村学園女子大学

今年度、ボランティアセンターを開設しました！

学生みなさん、ボランティア活動の経験はありますか？

多くの方が「ある」とお答えになったのではないかと思います。実は、本学は学生も先生もボランティア活動にとっても熱心なんです。その理由は、建学の精神が浸透しているからではないでしょうか。

ご存知のとおり、川村文子先生は大正12年に発生した関東大震災の社会復興活動のなかで、女性の働きが社会にとってどれだけ大切かを痛感し学園を創立されました。先生が建学の精神として中心に捉えたのは、「感謝の心」を基盤とした「自覚ある女性」の育成と「社会への奉仕」でした。こうした建学の精神や「感謝の歌」などを学ぶにつれ、ボランティアな精神と態度が養われていったのではないかと考えます。

本学のボランティアセンターは、建学の精神のひとつである「社

会への奉仕」を具現化するために設立されました。また、学生のボランティア活動を推進・支援することで、地域社会と連携・協働しながら大学と地域のつながりを深め、まちづくりの一端を担うことを目的としています。そのために、主に以下のような取り組みを行っています。

1. ボランティア活動に関する情報の収集
2. 学生等に対するボランティア活動に関する情報の管理および提供
3. 学生等に対するボランティア活動に関する相談および助言等の支援
4. 関係自治体およびボランティア関係機関との連絡調整
5. 学生等に対するサービスラーニングやフィールドワークプログラムの企画、実施
6. 本学のボランティア関連科目への協力・支援

今年度から始まったばかりのボランティアセンターですので、まだまだ運営は手探り状態です。しかし、今年度だけでも延べ200名を超える学生がボランティア活動を行っています。

ボランティア活動未経験のみなさんは、是非ボランティアセンターを訪ねてください。

卒業生のみなさんもボランティアや地域貢献の情報をお寄せください（情報の受付には条件があります）。詳しくは下記URLをご覧ください。

ボランティア・コーディネーター 藤原 昌樹



平成29年
4月22日

我孫子市スポーツボランティア養成講座シンポジウム
(於 川村学園女子大学) 運営ボランティア
(車いすラグビー日本代表今井選手と記念撮影)

平成29年
9月14日



鎌ヶ谷市観光タウンミーティング (於 鎌ヶ谷市役所)
事業へのボランティア参加 (まち歩きの結果を発表)



川村学園女子大学ボランティアセンター

12号館5階12513教室
TEL/FAX 04-7183-8143
URL : https://www.kgwu.ac.jp/chiiki_sangaku/volunteer_center/
E-mail : kawajo-volucen@kgwu.ac.jp
Twitter : <https://twitter.com/KawajoVolucen>

学生&教員のボランティアあれこれ

学習支援の ボランティアを通じて

私は、大学4年次に、学習支援のボランティアに参加しました。この学習支援は、子どもの貧困に目を向けたNPO法人が主催している活動で、千葉県の小中学校を退職された先生方を中心に、近隣の大学生もボランティアとして携わっています。

私は、主に週2日、中学2年生と3年生を対象に、数学と英語の学習指導ならびに生活指導に関わらせていただきました。そこに来ている中学生たちは、経済

的な事情で塾に通えない、不登校が続いている、などの問題を抱えており、子どもたちが志望する高校に進学ができるよう、そして、その後の高校を無事に卒業できるよう、サポートしていくことが必要でした。生徒一人ひとりの家庭環境を踏まえ、生活面も含めた学習のサポートを行うことは、決して容易なことではありませんでしたが、塾講師のアルバイト経験や心理学科で学んだ知識も生かすことができたと感じています。

なかなか子どもの貧困に目が向けられない中、ボランティアでの活動を通して、

私たちに何かできることはないか、常に考えさせられました。また、中心となって活動されている先生方の熱い思いに多くの刺激を受けるとともに、そこに来ている中学生の現状を目の当たりにしたことで、教育支援の重要性も感じました。

そのボランティア経験の影響もあり、現在、私は、大学院で認知心理学についての学びを深めるとともに、教育学に関する授業も受講しています。大学時代に授かった多くの貴重な経験を心に留め、充実した大学院生活を送りたいと思います。

平成28年度心理学科卒業生 赤井 響香

放課後子ども教室「あびっ子クラブ」のボランティア活動について

子どもの心理について勉強してはいるものの実際に子どもと関わる機会がなかなかない院生生活を送っていたところ、ゼミ担当の北原教授から我孫子市の放課後子ども教室「あびっ子クラブ」をご紹介いただいたのが縁で、院生1年からボランティア活動に参加しています。「あびっ子クラブ」は小学生の子ども達が放課後等に安心・安全に過ごすことができる居場所作りを目的としている場で、授業が終わると子ども達が将棋やけん玉、人生ゲームや工作など自分の好きな遊びをしに「あびっ子クラブ」に集まってきます。私はボランティアスタッフとして、子ども達の安全を見守りつつ一緒に遊んでいます。

初めて「あびっ子クラブ」に参加した時は、どうやって小学生と遊ばばいいのだろうか、そもそも子どもに受け入れてもらえるのだろうか？ など心配もしていたのですが、実際に参加してみると子ども達の方から「一緒に遊ぼう！」と声をかけられることが多く、すぐにその場

に馴染むことができました。また、子どもの対応で困ったり、何か気になることがあったときには「あびっ子クラブ」の先生方からアドバイスをしていただけなので、院修了後に子どもの支援に携わろうと考えている私にとって今後に生かせるとても貴重な経験でした。

さらに私は、「あびっ子クラブ」でのボランティア活動を元に調査研究をしています。ボランティアスタッフや先生方は活動の間名札をつけているのですが、先生方は子ども達に自分のことを覚えてもらいやすいように自分の得意なもの・工作の得意な先生は小さな玩具、折り紙の得意な先生はバラの折り紙などをつけています。私は手芸が得意だったので、自分で作ったあみぐるみ（毛糸で編んだぬいぐるみ）を名札に引っかけたり、ポケットに入れたりして参加していたのですが、子どものぬいぐるみ遊びを見守る中で、ぬいぐるみには従来遊戯療法で確認されてきたような有用性や支援の効果があると考えられ

る事例をいくつか目にしたので。そこから子どもの日常活動場面にぬいぐるみを導入することで起こる支援の効果についての研究をし、修士論文としてまとめています。（ちなみに、研究で使用しているあみぐるみの兄弟が心理学生研究室にいますので、興味のある方は是非ご覧になってください。）

残り少なくなってきた学生生活ではありますが、ボランティアで子どもや、子どもを支える先生方と実際に関わることで得られた知見を将来に生かしていきたいと考えています。



生活文化学科 大坂 佳保里

千葉県立湖北特別支援学校との連携

地域連携の一環として、川村学園女子大学の生活文化学科は2015年から千葉県立湖北特別支援学校の流通サービス科で指導や助言を行っています。

湖北特別支援学校は、2014年4月に旧湖北高等学校の跡地に我孫子特別支援学校の高等部が分離・移転によって開校した学校です。開校当初は普通科のみでしたが、翌年の2015年には専門学科の流通サービス科が開設され、その中の食品・サービスコース科で施設の設備や機材の助言、またパンや焼き菓子の製造に関する指導を行ってきました。支援学校の普通科には農耕班があり、とても美味しい野菜を栽培していました。そこで、



これらの野菜を利用した製品づくりをしたいとの要望を受け、まずはほうれん草を入れたロールパンの開発に取り掛かりました。本学科で考案したレシピを生徒さん達と先生方、パンの製造指導の方で試作を重ねながら商品化し、学内の手作りパンショッップのHonnête（オネット）で販売することができました。この取り組みは、「異校種の連携」と「地域のつながり」と題した講演会で報告され、新聞などにも取り上げられました。

次に新たな取り組みとして、普通科の農耕班が栽培しているひょうたん型のバターナッツかぼちゃを使ったスイーツの開発に、本学の学生が取り組みました。全く新しいスイーツだと生徒さん達が不安に思うのではと考え、既にレシピ提供を行っていたスノーボールクッキーをもとに、検討を行いました。

バターナッツかぼちゃは日本かぼちゃの一種ですが、一般的なかぼちゃと異なって繊維質が少なく、なめらかな肉質をしています。そこで、加熱条件を変えながらピューレを作成しました。クッ

キーには小麦粉を使用するのが一般的ですが、小麦アレルギーの方にも食べていただけるように、米粉を使用することにしました。かぼちゃの風味と米粉のしっとり感が出るように、湖北特別支援学校の皆様と配合割合をg単位で調整しました。

試作は本学だけではなく、学生が出向いて作り方のポイントを伝えながら湖北特別支援学校でも行い、とても美味しいクッキーに仕上がりました。このクッキーは大学の鶴雅祭はもちろん、第10回大学は美味しい!! フェアでも販売され、フェア後に高島屋に問い合わせが入るほどの大好評でした。

このバターナッツかぼちゃのスノーボールクッキーは、大学と地域の学校の双方向の関係が作り上げた作品であり、ボランティア活動のすばらしい成功例の一つです。今後も、食品の加工を通して、地域と連携した活動を推進したいと考えています。

児童教育の ダンスボランティア

2年 大部 仁湖



私は昨年度から千葉県立我孫子特別支援学校のダンスクラブに所属して、昨年度は毎週水曜日、今年度は月に2度子どもたちと一緒に簡単なダンスを踊っています。みんなに親しみのある曲「アンパンマン」「勇気100%」「ハピネス（嵐）」などを使用して、毎回楽しい時間を過ごしています。また、年に数回、地域のイベントに参加し、日ごろの練習の成果を発揮します。

はじめのうちは、話がなかなか通じず、相手の話も聞き取ることが難しく、みんな同じように見えていました。しか

し、活動が続けていく中で、徐々に話が聞こえてくるようになりました。言っていることが理解できないときでも、話を聞こうとする姿勢を示すと、一生懸命に伝えようとしてくれるため、私も一生懸命に聞こうとします。そして、一番心の中で大きく変化したのは、子どもたちの見え方でした。同じ障がいを持った子どもは同じように見えていましたが、人それぞれの好みや感情表現の仕方、性格など個性が豊かで、その点で私たちと何も変わらないのだと気づくことができました。

ダンスボランティアのおかげで、特別に支援を要する子どもへのかかわり方、意識の向け方がわかるようになってきました。教員として担任を持った時、どのような形であれ支援を必要とする児童へ適切な支援ができるように、今後も引き続きダンスボランティア活動を続

けていきたいです。

2年 橋本 聖菜

私は、我孫子特別支援学校のダンスクラブで、ダンスを教えたり、一緒に発表会に参加したりするボランティアをしています。ボランティアを通して、支援を必要とする子どもとのかかわり方を学んだり、ありのままの姿を感じたりしています。子ども達が自分から何かをしたり、音楽に乗って楽しく踊ったりする姿を見て、支援を必要とする子どもへの先入観などは消え、特別支援教育に興味を持ち、障がいとは何だろうと考えることができました。今では、私が子ども達にダンスを教えられていて、子どもの日々の成長を感じることが楽しみになっています。

幼児教育の 子育て支援ボランティア

担当教員 江村 綾野

9月2日（土）我孫子市アビイックオーレで開催された「ママへのごほうびフェスタ」に、幼児教育学科3年江村ゼミの8名がボランティアとして参加しました。このフェスタは、我孫子市子育て支援センターが主催し、地域の子育て家庭を対象にして毎年開催しています。

今年のフェスタでは、特設ステージのハンドベル演奏、絵本の読み聞かせ、にこにこ広場での手形足形製作、せっけん作りなど、盛沢山のイベントが行われ、多くの参加者で賑わいました。当日は朝からあいにくの雨模様で9月最初の土

曜日とは信じられないような寒さの中、学生たちは会場整理、ステージ係、手形足形製作などを担当しました。

我孫子市には市内に4か所の子育て支援施設があります。本町の「にこにこ広場」、天王台の「すくすく広場」、湖北台の「わくわく広場」、布佐の「すこやか広場」です。これらの子育て支援施設では、乳幼児を子育て中の親子が自由に楽しく遊びながら交流をもち、子育てについて学び合える事業や子育ての相談、情報提供、講習会などが実施されています。我孫子市内の大学として、地域の活動をお手伝いできたことを嬉しく思います。

近年の保育・幼児教育では、子育て支援が重要視されており、幼児教育学科の学生は家庭支援に関する科目を履修し

ています。地域活動に参加することで、大学での学びがさらに深まり、実践的な学びが保育者として生かされることは言うまでもありません。今後も、地域との連携を深め、子どもと家庭にやさしい保育者を養成していきたいと考えています。

参加した学生の声：朝から雨で本当に寒かったのですが、たくさんさんの親子が参加していて、大きなイベントであることを実感しました。保育者は地域でも子どもと親を援助する役割のあることを学ぶことができました。



2年 長谷川 琴音

準ミス・インターナショナルとしての社会貢献

私は現在、2018準ミス・インターナショナル日本代表として様々な活動をしています。先日は、ユニセフの募金活動や小児がんの子どもを応援するゴールドリボンウォーキングに参加させていただきました。

大学の授業の中では様々な子どもた

ちの現状に直面しますが、一般的には知られていないことも多く、まずは子どもたちの課題について一人でも多くの方に知っていただくことが必要と改めて感じました。

今後は、そのきっかけ作りをしていけたらと考えております。



4年 藤田 絵梨

国際英語学科

国際英語学科のアクティブラーニング

国際英語学科では、身体を動かす活動の中で英語を使う「アクティブ・ラーニング」を重視しています。ときにはキャンパスの外へ出ることもあります。最近の活動からいくつかご紹介しましょう。

10月21日（土）、鶴雅祭においてレシテーション&スピーチコンテストを開催しました。レシテーション部門では英語の課題文を暗唱しますが、外国人の先生の指導のもと、発声や発音だけでなく表情やアイコンタクト、ボディランゲージにも気を配ります。スピーチ部門では自作の英語スピーチを発表しますが、や



はり表現力が問われます。表彰式では助教のゴフ先生とシャバリン先生がそれぞれの出場者に丁寧なコメントを下さいました。



11月15日（水）、キスチャックゼミの4年生、有元彩乃さんが、卒業研究の一環として英語パフォーマンス“The Travelling Musicians”を発表しました。「プレーメンの音楽隊」を題材とした劇で、4匹の動物と2人の盗賊を1人で演じ分ける熱演でした。

11月18日（土）、「EIAⅡ」を履修する2年生たちが、英語を使って外国人の先生方を観光地に案内する「通訳ガイド体験」を行いました。担当のキスチャック



先生、ゴフ先生と一緒に隅田川を水上バスで漕ぎ浅草を訪れるツアーを企画し、観光スポットについて英語で解説する準備をしたり、逆に先生方に尋ねたい質問を用意したりしました。当日はあいにくの空模様でしたが、学生たちにとって忘れがたい旅となったようです。

国際英語学科ではこれからも、実社会でのコミュニケーションや情報発信に英語を活かす企画をいろいろと考案していきます。（菱田 信彦）

史学科

史学科では、アクティブに歴史を学んでもらうため、学外に出て「ホンモノの歴史」に触れる機会を多く設けています。今年も各学年で学外見学に出かけました。その一部をご紹介します。

1年生は4月6日、オリエンテーションで文京区の旧岩崎邸庭園、東洋文庫ミュージアム、そして六義園を見学してきました。東洋文庫は世界有数のアジア関連の蔵書を誇る図書館であり、我々が訪れたときはミュージアムでロシアのロマノフ朝に関する展示が行われていました。さすが史学科の学生だけあり、みなさん書物や絵画の展示をくい入るよう



でくれたようです。

2年生はオペラ「バラの騎士」を観に行きました。18世紀のウィーンを舞台にした三角関係の恋物語です。上演時間は4時間と長丁場でしたが、悪役の男爵がカツラを外したりとコミカルで面白く、学生たちは熱心に観ていました。観劇が好きな学生たちからは、オペラは劇場も衣装も音楽も華やかで楽しかったという感想が聞かれました。

3年生は歌舞伎・能楽・文楽など、伝統芸能を鑑賞しました。特に歌舞伎では、回り舞台の巨大さや場面転換のダイナミックさを目にして驚き、推理劇のような歌舞伎の筋立てを見て、意外に親しみやすいのと感じたようです。いくつかのゼミでは、鑑賞教室の前後に、国立国会図書館を見学し、ゼミで用いる本や論文を探すというオプションツアーが組まれていました。在学中の研究に重要なものもちろんですが、卒業後も利用できる図書館ですから、是非積極的に使ってほしいと思います。

4年生は、自分たちで企画・計画してゼミ旅行に出かけます。今年は辻浩和ゼミ（日本中世史）が広島・尾道・鞆の浦に、西川誠ゼミ（日本近現代史）が広島・

呉と九州国立博物館に出かけました。旅行先では卒業論文の中間報告が行われるため学生にとっては気が抜けませんが、発表後の夕食、仲間たちとの語らいは、格別に楽しかったようです。

史学科ではこの他にも、東京都立中央図書館、フランス人間国宝展、書道博物館など、それぞれの授業で見学会が多数催されています。実物を目にし、地理を体感して、歴史を生き生きとイメージできるように努めてくれるといいと思います。（辻 浩和）



心理学科

川村学園女子大学文学部心理学科は、1988年の開学時から臨床心理分野で活躍するOGを多数輩出してきました。特に1999年に開設された大学院は2001年から臨床心理士指定大学院となり、延べ130名を超える臨床心理士を現場（医療・教育・福祉領域等）へ送り出してきております。そして、本年9月15日に新たに心理領域に特化した国家資格「公認心理師」の法案が施行されました。本学では施行前から対応準備を進めておりました。加えて既卒の方（特に大学院修了者）への対応も行っております。

この法案は条文最後にも記されている「近時の国民が抱える心の健康の問題等をめぐる状況に鑑み、心理に関する支援を要する者等の心理に関する相談、援助等の業務に従事する者の資質の向上

及びその業務の適正を図る」ことを目的として制定されました。この資格は、これまで臨床心理士に求められていた大学院修了だけでなく学部での教育も必須となっております。つまり、国家試験受験資格取得のために、『学部卒+大学院修了』か『学部卒+実務経験2年以上』が基本的なルートとなりました。

この資格の特徴は、学部教育において幅広い科目の履修と充実した実習が必須である点です。前者に関しては、資格および法令に関する科目（「公認心理師の職責」や「関係行政論」）も含めた24科目履修が必須となっております。「臨床心理学概論」や「心理学実験」のような心理学科においてポピュラーな科目だけでなく「福祉心理学」や「司法・犯罪心理学」のような周辺領域と関連した

科目も必須となりました。本学科では数年前にこの国家資格を見据えたカリキュラム改定を行っていたため、要求された24科目中21科目は3年前からほぼ用意が出来ていた状況です。加えて実習科目「心理実習」も類似科目を開学時から設置しておりました。それ故、次年度入学生の方にも安心して国家資格取得を目指していただけます。

もちろん、本学心理学科には公認心理師資格取得以外にもさまざまな学びがございます。たとえば、社会調査に関する講義・実習科目も完備されているので、社会調査士という資格取得も可能です。多様な学びが可能である本学心理学科では多くの方々の入学を心待ちにしております。

（田中 裕）

日本文化学科

学科キャラクター誕生！



この夏、日本文化学科にオリジナルキャラクターが誕生しました！「大和ふみか」ちゃんと、愛犬の「きなこ」です。ふみかちゃんは大学構内の桜並木をイメージした着物を着て、校章である鶴の柄の帯を締めています。日本文化が大好きで、海外の人にも日本の言葉で日本の文化を楽しんでもらいたい！という気持ちから日本語教員を目指す女の子です。今は日本の服飾文化に興味がある様子。きなこは、ちょっとやんちゃな柴犬の男の子です。

このキャラクターが誕生するきっかけとなったのは、オープンキャンパスの後で、アドバイザーの学生たちと教員たちが談笑していた時のことでした。日本文化学科を盛り上げたい！という話の流れで、学生のひとりが、「ゆるキャラがいたら楽しそう……」と言ってくれたのです。それで話が盛り上がり、学生た

ちに募集をかけて、多くの応募の中から選ばれたのが、この大和ふみかちゃんときなこだったのです。

デザインしてくれた学生によると、「校章の鶴など川村学園女子大学の日本文化学科であることが分かる要素を取り入れることと、各キャラクターの色は日本の伝統色を意識しました」とのこと。是非、デザインの細かなところにも注目してみてください。

せっかくキャラクターが誕生したので、早速活躍してもらうべく、日本文化学科の公式ツイッターも開設しました。情報を発信してくれているのは、もちろん、ふみかちゃんときなこです。ふたり（ひとりと一匹？）には日本文化学科の魅力を楽しく発信していってもらうつもりです。

ところで、このイベントに触発されたのでしょうか、キャラクター募集をしている頃、学生の間で面白い流行が起こりました。それは、学科の教員の似顔絵を描くというものです。学生たちが様々な描いてくれるなか、ある学生がくれた絵が、いま、それぞれの教員の個人研究室の前に貼られています。どの教員の絵も特徴をとらえていて、とてもよく似ています。この学生によると、「似顔絵は、いろいろな学生や先生方から印象を伺って



描いていました」とのことです。

さらに、教員の個人研究室も、それぞれの専門や個性が出るように扉や掲示板を飾ろう！ということになりました。アットホームな学科の雰囲気そのままに、日本文化学科のフロアは賑やかで楽しいものになっています。（千野 裕子）



幼児教育学科

幼児教育学科では、「子どもとともに生きることが出来る自覚ある保育者」、「すべての〈ひと・もの・こと〉に感謝できる保育者」の育成をめざしています。2017年度も、「多様な〈ひと・もの・こと〉に出会う（1年生）、学ぶ（2年生）、活かす（3、4年生）をねらいとし、授業や実習をとおりて学びを深めました。授業や活動の内容は毎年、様々な企画が立てられて実践されます。今年度おこなわれた活動のなかから、幾つかご紹介しましょう。

附属保育園「夕涼み会」に参加しました

今年のはじめての導入として、附属保育園の夕涼み会に、一部の学生が参加しました（7月22日（土））。学生たちは勿論、全員が浴衣を着用で参加しました。附属



保育園では、夏の夕べに園児たちが保護者とともに、楽しいひ

とときを過ごします。各クラスごとに御神輿を製作し、先生と一緒に担いだり、皆で盆踊りを踊ったり、色んなゲームをしたり。その中で、1年生の一部の学生が、魚釣り遊びを提供しました。1年生全員で製作した様々な魚を持っていき、ビニールプールに放って、釣り竿で釣りました。とても楽しいひとときでした。



ミシンでエプロン作り+手縫いで手袋シアター作りをしました

保育者の仕事に縫物は必須です。今年は初めての企画として、ミシン体験をしました（10月7日（土））。作ったものは、



附属保育園の園児に使ってもらうエプロンです。小さくて可愛いエプロンを作成すべく、ミシンを使い慣れている学生も、そうでない学生も協力して作製しました。同日、手縫いで、手袋シアターも作りました。ミシンとはまた勝手が違う手縫いですが、個性的な様々な手袋シアターが完成しました。



体験学習は、これからもまだ続きます。また来年、ご紹介できるのを楽しみに、活動をしていきたいと思います。

（永井理恵子）



児童教育学科

「白雪姫」を終えて

鶴雅祭での劇を通して学んだことがいくつもある。一つ目に、早くから準備を行うことの大切さである。このことが大切であると感じたのは、作っていく段階でたくさんの発見があったからだ。背景や小道具も役者が入り演じてみるとイメージはがらりと変わる。自分たちの作りたいイメージに沿わせていくにはそれ相応の時間を要するのである。また、演じていくと、その役にあったセリフの言い回しや間の取り方、身振りなど細かい部分にまでこだわりが出る。何度も何度も練習し、試行錯誤を重ねていく上でイメージ通りの劇は完成していくのだ。

二つ目に、学んだことは子どもたちの



心情や配慮である。本番の上演中だけでなく、本番前のお客様集めなど子どもたちと接していく中で大きく衝撃を受けたことは、どの子も役者を本物として見てくれていることである。普段の生活ではただの大学生でしかなかった私達が、鶴雅祭中の私たちは誰よりも、白雪姫に出てくるキャラクターとして受け入れられていたのだ。大人に近づくにつれて「劇だから…」と思ってしまうことも子どもたちにとっては夢でありそれを事実として受け止めていることに驚きと発見をし、劇を演じる前の自信にもつながった。

また、演じる上で子どもたちにいかに分かりやすく、リアリティのあるように行うかというのは何度も練習中に話し合われた。できるだけゆっくり、でもキャラクターそのものの世界観は壊さず、かつできるだけ難しい言い回しはせずに、簡単に噛み砕いた台本にしようとセリフの読み合わせも何時間もかけて入念に行ったのだ。その他にも、見ているだけで飽きてしまわぬように、子どもたちに語りかけるようにセリフを回すことや、

子どもたちに掛け声や出てきて参加してもらうものも取り入れ、できるだけ劇に参加している、自分はこの(白雪姫の)世界にいるという感覚をもってもらう工夫をほどこしたのである。

三つ目は、みんなが揃うことの大切さである。私達の学科は、一年生が20人にも満たない少人数クラスだ。だからこそ、一人でも欠けると穴埋めを行うことが難しく、たとえ練習だとしても満足のいくようにできないなど困る場面が多くあった。しかし、全員が揃うと少数であることを生かし、全員の意見を聞き、取り入れながら団結して作業を効率よくすすめることができたのである。このことから、誰が抜けることもよくないと感じたし、一人では成し遂げられないことも全員で協力することで成功へ導いていけるといことを実感した。

（1年 今井 遙佳）





生活文化学科

今年度も新宿高島屋で開催された「大学は美味しい!! フェア」に出展しました! このイベントは3年連続の出展でしたが、毎年、新たな商品開発や新しい取り組みをすることで、学生たちの実践力や主体的に学ぶ力の向上が見られる貴重な機会です。今年度は商品、ディスプレイ、サービスにおいて、さらなるレベルアップをしました。

商品は、様々な地域、企業、学校などと連携し、これまでのジャムやソース、野菜のおいしさを生かしたピクルス、カラフルなスイーツに加え、あじさいねぎのドレッシング、白樺派の文人も愛した白樺派のカレー、バターナッツかぼちゃの入った米粉のスノーボールクッキーなどが加わり、全部で11商品にまで発展しました。どの商品も学生が開発した自慢の商品です。あじさいねぎの野菜ドレッシングはJ Aとうかつ中央、小金園芸品出荷協会と連携し、商品開発やラベル作成まで学生とともに行いました。野菜のうま味とあじさい

いねぎの食感を生かした商品です。白樺派のカレー川村バージョンは白樺派のカレー普及会とコラボし開発しました。川村バージョンには、本学で開発したトマトジャムが入っており、カレーの辛さに甘味とトマトのうま味がプラスされています。米粉のスノーボールクッキーは湖北特別支援学校と連携し、商品開発と製造サポートを学生が行いました。バターナッツかぼちゃの優しい風味と甘さが特徴で、小麦粉アレルギーの方にも食べていただける商品を開発することができました。

ディスプレイにおいては、たくさんの商品をお客様によりわかりやすく、手に取りやすい、マルシェ風の本箱や棚に商品を陳列しました。この本箱や棚は、大学近くにある、木材店に製作を依頼しました。商品を取り出しやすく、陳列しやすく、よりきれいに見えるように工夫をした



ものです。それだけでなく、本学のブース全体は会場の中でも、ひときわカラフルで華やかなディスプレイでした。

サービスでは、先輩から後輩へお客様への接し方、商品の梱包の仕方、商品説明の方法がスムーズかつ丁寧に、伝えられていました。学生間の連携によって、お客様の立場に立った、笑顔あふれる川村らしいサービスが実践されていきました。また、新宿高島屋の会場フロアには免税カウンターがあるため、外国人観光客への対応として、国際英語学科の学生さんにも協力いただき、英語でご案内ができる体制を整えました。イベントを通じて学科間の連携ができたことも、大きな発展につながりました。

イベント終了後、学生たちはイベントを無事に終えた達成感を感じていましたが、すぐに次へ向けた活動がスタートしました。学生たちが考案した新しい商品、新たなイベントへの参加、食育活動など、学生らしいアイデア、精力的な活動にご期待いただきたいと思います。(永嶋久美子)

観光文化学科

〈女子観光教育のバイオニア〉

川村学園女子大学観光文化学科は2000年に我孫子キャンパスに開設された「日本の女子観光教育のバイオニア」とも言うべき教育機関です。観光文化学科は2015年に目白キャンパスに移転し現在に至っています。

〈実践的な教育〉

観光の現場で実践的に学ぶことは本学科の最大の特徴です。その中核をなす「観光文化実践」(I～X)は全科目において観光現場での実践授業を行います。本年度開講の「観光文化実践」(I)および(IV)の実践授業を紹介します。

「観光文化実践 (I)」(担当・丹治朋子)では、包括的な連携を始めて3年目となる藤田観光(株)の協力を得て、ホテルの仕事を理解する授業を展開しています。ホテル



椿山荘東京にて、宿泊部門、料飲(レストラン)部門、宴会部門、ブライダル部門のそれぞれの方から実際の仕事や課題についてお話を伺い、現場を見学しながら理解を深めるという内容です。実際にあったお客様とのやりとりや、現場での工夫の様子を聞くのは大変にエキサイティングなことです。

「観光文化実践 (IV)」(担当・小堀貴亮)では、今、多くの訪日外国人観光客に大人気の街、台東区谷中界隈を学びの舞台として、その魅力とまちづくりの極意を探るべく現場を「見て」「聞いて」「歩いて」「食べる」といったフィールドワークを行っています。

学生達一人ひとりが、コンピューター・グラフィックス(CG)で作成した白地図を片手に調査結果を書き込み、その成果を、演習にて修得したCGの技術を駆使してデザインを施し、最終的に「オリジナル観光マップ」という形で表現することを目的として活動しています。

今、話題のレトロタウン・谷中を、本学の学生達がどのようにデザインし、彩っていくのか…学生ならではの個性あふれる「女子力」満載の谷中・オリジナル観光マップの完成を楽しみにしてください。

このほか、「テーマパーク論」ではディズ

ニーランド、「観光文化(江戸・東京)」では江戸東京博物館、「ブライダル産業論」ではブライダル施設というように他の科目でも学外での研修授業を行っています。

〈産学連携〉

藤田観光(株)との連携は、2015年の学科の目白移転を機に始まりました。これまで、開業前のホテルグレイスリー新宿や箱根小涌園天悠(高級旅館)の見学、ホテル椿山荘東京の若者向けパンフレットの作成、箱根ホテル小涌園で販売された学生による宿泊プラン企画、学生プロデュースによる結婚式の挙行などを行ってきました。

また、世界最大の観光イベント、ツーリズムEXPOでは、藤田観光ブースの他、春秋航空のブースでも本学学生が案内担当としてインターンシップを行いました。今後も複数の企業や地域と連携していく予定です。

観光領域は、教室で学んだ内容を身近な場所で確認し、実践することが可能です。このようなバランスのとれた実践的な教育を通じて、学生は現実の社会を読み解く力や問題解決力を身につけています。(西岡 祥文)



大学院

川村学園女子大学大学院は、現代社会が抱える諸問題に対して、その未来を見つめて真摯に深く考え究め、問題解決能力を備えた指導的役割を果たすための人材育成を目的として、1999年に開学しました。大学院開学時は人文科学研究科修士課程に心理学専攻と生涯学習専攻のみでしたが、2004年に比較文化専攻が開設されました。比較文化専攻には博士前期および後期課程が設置されています。また、2011年には人文科学研究科修士課程に教育学専攻が増設され、小学校教諭専修免許状が取得可能となりました。

このように、本大学院では高度な専門性を持つ研究者の養成だけでなく、職業人の育成も行っています。さらに、意欲ある社会人の再教育を実施し、21世紀型の大学院をめざしています。以下にその概略を説明します。

人文科学研究科修士課程には、現在、教育学専攻と心理学専攻が設置されています。また人文科学研究科博士前期・後期課程には、比較文化専攻が設置されています。

教育学専攻は、今日の教育の動向に対応して、小学校教育を実践するための教

育思想、教育理論などの専門性を身につけるとともに、学校現場の教育活動をリードする「教育実践力」を備えた教員の養成を行っています。特に、インクルーシブ教育を推進できる実践力を育成するために、特別支援を要する児童を含む通常学級の学習指導法、学級運営などを、教育思想、教育史、教科教育、道徳教育等から横断的・実証的に追究しております。このインクルーシブ教育の推進のために、我孫子市を中心とした千葉県内の地域小学校、特別支援学校の協力によって、教育関係者・機関との連携的・総合的な職務遂行能力を育成しております。近年は地域教育機関の現任者が在職のまま大学院へ進学して、実践的な学びを深めるケースも増えてきております。

心理学専攻は、「臨床心理学領域」と「心理行動科学領域」の2領域にわかれます。「臨床心理学領域」は、臨床心理士をめざす領域で、(財)日本臨床心理士資格認定協会の第1種指定校です。これまで130人以上の臨床心理士を養成してきました。さらに2018年度から国家資格「公認心理師」取得にも対応します。この領域では、心の健康の問題の探究や、そのために必

要な測定・診断・治療・予後等の理論と技術の修得をします。大学院修了後は、公認心理師および臨床心理士両方から、臨床スペシャリストへの道をめざします。「心理行動科学領域」は、心理学をより専門的に学び、将来、心理学の専門的職業に就いたり、博士課程(他大学院)に進学することをめざす領域です。この領域では、知覚、記憶などの認知心理学分野、対人関係、文化などの社会心理学分野を中心に講義を受けるとともに、各分野を専門とする教員から研究指導を受けます。

比較文化専攻は、2学部5学科を基礎とした人文学系の大学院として、博士前期課程では、文化、社会、宗教、教育、言語、ジェンダーに関する高度な知識を横断的に身につけ、現代社会の諸問題を解決できる人材を育成します。博士後期課程では、人文学諸分野の研究者・教育者として、各組織の中核的存在として活躍できる人材育成をめざします。

以上のように、多様・多彩な学びができる川村学園女子大学大学院は、大学卒業後の「学び直し」の場としても最適と考えております。多くの方の入学をお待ちしております。(西川 将巳)

社会教育学科卒業生の皆様へ

社会教育学科は、「広範囲にわたる社会教育を総合的に学習、研究、実践し、社会教育の発展・充実・活性化を目指すとともに、社会の高度化・多様化・情報化などの変化に対応できる社会教育指導者の育成と、明るい家庭や社会の創造に役立つ心身ともに健全な女性の育成」を目標として平成3年に創設されました。以来25年余りにわたり、小・中・高校・大学の教員、各種公務員、各種社会教育施設・福祉施設の専門職員、法人や会社・企業の職員などの幅広い分野で活躍する1,000名を超える卒業生を輩出して参りました。

社会教育学科のカリキュラムの変遷をたどると、2回の大きな改正があります。1回目は平成14年度の改正で、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験受験資格が修得できるようになりました。『『みんなの学



び』と『みんなの幸せ』というキャッチフレーズのもと、学科の

専門科目は、「生涯学習プランニングコース」、「生涯学習・情報支援コース」、「共生社会、健康・福祉支援コース」の3つの領域に変更されました。2回目の改正は平成23年度で、福祉の資格科目(社会福祉主事の科目は除く)をカリキュラムから外し、「生涯学習支援に関する科目」と「教職支援に関する科目」の2領域に分類しました。とりわけ公務員と教員の養成に力を入れ、各種採用試験対策に特化した科目や「寺子屋」という自主授業を設けるなど、採用試験合格に向けて支援いたしました。

学生生活では、学生たちが交友を深める機会として、オリエンテーションキャンプが挙げられます。創設当時は蓼科山荘(宿泊を伴う)を利用していましたが、日帰りで実施することになってからは、博物館、美術館、図書館などの社会教育施設の見学と食事という学科の特性をいかした内容で行われました。また、学生たちの企画による流しそうめん大会、ピザパーティー、クリスマスパーティーなどが定期的に開催され、同学年だけではなく異学年との交流もさかんに行われ、こうした交流により普段から上級生が下級生の履修や悩みなどの

相談にのったり、あるいは就職活動のアドバイスをしたりという姿が見られたのも社会教育学科の特徴のひとつと言えます。

さて、このように歴史を刻んできた社会教育学科ですが、平成27年度に学生の募集を停止し、平成29年度の卒業生をもって学科を閉じることになりました。これは、我が国が目指す、生涯にわたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる「生涯学習社会」の実現に向け、本学においても全学的に取り組むことになったため、社会教育学科は一定の役割を終えたと判断したためです。

長年、慈しみ育んで参りました学科がなくなることに言いようのない寂寥の念を抱きますが、卒業生の皆様のより一層のご活躍とご健勝を祈念いたしますとともに、当学科にかかわっていただきました多くの先生方にここから感謝を申し上げます。

社会教育学科学科長 藤原 昌樹



文化交流の重要性——ニューヨークでの調査から



文学部
国際英語学科
倉林 直子

2017年3月、私は1960年に行われたアメリカでの初の歌舞伎公演に関する資料調査のため、ニューヨークのRockefeller Archive Centerを訪れた。マンハッタンから電車でおよそ1時間、緑に囲まれたのどかな場所に建つセンターは、ロックフェラー家のかつての住居を使用したもので、一般的な図書館とは異なる雰囲気の中、資料を閲覧することができる。

ロックフェラー家といえば、石油精製業により巨万の富を得た大富豪の一族であるが、日本とも深い関わりがあったことをご存じだろうか。石油王かつ慈善家として知られるジョン・D・ロックフェラーの孫であるジョン・D・ロックフェラー3世は日本に強い関心を持ち、ロックフェラー財団は、第二次大戦後、特に1950年代の日米文化交流に大きな役割を果たした。1960年の歌舞伎公演も、ロックフェラー財団が財政支援を行った日米文化交流のひとつだった。

現在、魅力ある日本文化として認知さ

れ、アメリカをはじめ、さまざまな国で公演が行われている歌舞伎だが、第二次大戦中のアメリカでは封建主義や軍国主義の象徴とされ、その結果、占領期には検閲や上演禁止の憂き目にあった。しかし、1950年代に来日し、直接歌舞伎を観たアメリカ人によってその魅力が再認識され、アメリカに歌舞伎を招致する動きが広がった。一方、文化的に豊かな日本という新たなイメージを海外に向けて発信しようと考えた日本人にとっても歌舞伎招致の動きは歓迎すべきものだった。

1950年代のアメリカでの歌舞伎招致運動は、歌舞伎が西洋演劇と肩を並べる日本固有の芸術として認められていく過程であり、日本が歌舞伎に対する自信を取り戻す過程でもあった。その結果である1960年の歌舞伎公演は、同時期に生じた安保闘争やアイゼンハワー大統領の訪日中止など、日米間に緊張が走る出来事に影響されることなく、政治関係に左右さ



Majestic Theater (Phantom of Opera) (筆者撮影)

れない文化の力を示すと同時に、その後の海外での歌舞伎公演への道を拓く重要な文化交流の先駆けとなったのである。

このニューヨーク滞在中、私はオペラやミュージカルを鑑賞し、他国の芸術に直接触れることの素晴らしさを改めて感じた。1950年代に歌舞伎を招致しようとしたアメリカ人を動かしたのは、日本における歌舞伎鑑賞の経験だった。情報技術が発達していない1950年代はもちろん、インターネットが普及し、さまざまな国の芸術を映像で簡単に見ることが可能となっている現在においても、他国の芸術を直接鑑賞した際の感動は計り知れないものがある。ニューヨークの劇場には常に、国籍を超えて多くの人が集まっており、アメリカの舞台芸術が国際的に高く評価されていることが伺えた。今回のニューヨークでの滞在中、私は国際文化交流の重要性のみならず、日本文化の魅力を海外に広く発信する必要性を再認識した。



Metropolitan Opera House (筆者撮影)

ラテン語)が廃止されましたが、英語での記述が慣例となっています。

それでは、最近の私の研究成果の一部を簡単に紹介します。

カナダ西海岸のバンクーバー島から北に約500kmの位置にあるクインシャーロット(別名:ハイダ グワイ)諸島で白亜紀前期(約1億1千万年前)の地層を調査中(図1)に、私は、示帯化石種(詳細な時代認定のできる種類)の*Douvilleiceras mammillatum*という棘の強いアンモナイトを偶然に発見しました(図2)。この地域のアンモナイトについては、1876年にJ. F. Whiteavesによって記載報告されて以来、多くのカナダ人古生物学者を中心に分類学的研究がなされています。しかし、誰一人として今日まで、この貴重なアンモナイトをこの地域から発見・報告することはありませんでした。この時の研究で、私はこのアンモナイトを含む数種の分類学的記載を行



図2. 幸運を運んでくれたアンモナイト

観光まちづくりの研究について



生活創造学部
観光文化学科
高山 啓子

私の専門は社会学で、主な研究は人間のコミュニケーションやメディアの社会学的な分析です。最近、観光社会学という観点から、観光まちづくりや景観まちづくりの研究に取り組んでいます。

近年、各地で特定の「テーマ」にもとづいた「まちづくり」が数多く行われています。まちづくりとは道路を整備したり公共施設を建設するだけでなく、その地域を活性化する手段として、生活環境

い、動物群の特徴を明らかにしています。このことは、この地域の国際的な地質年代の比較検討に貢献できたことだけでなく、白亜紀当時の古生物地理区の議論を行う上でも貴重なデータが提供できたものと思っています(この研究は、2016年、アメリカの有名な専門誌であるJournal of Paleontologyに掲載されました)。この研究は私にとって正に幸運の塊のようなものでした。

次に、私が研究のフィールドとしている北海道の白亜系(蝦夷層群と呼ばれています)で、国土交通省北海道開発局によるダム建設関連事業として、1990年代から2000年代にかけてアンモナイト調査を行いました(図3)。この調査で採集された化石は、白亜紀前期のもので、幸運にも日本から記載報告のないアンモナイトが多く見いだされました。しかも、その一部は前述のカナダで発見した同じ種のアンモナイトを含む*Douvilleiceras*属の数種が含まれていたのです。このアンモナイトのグループは、汎世界な分布をしており、1813年にH. Von Schlotheimが最初に報告して以来、各国のアンモナイト研究者によってその産出の記載報告がなされている種類です。そのため、この属に帰属される種は世界中から40種以上が報告されています。私は、ダム調査で採集された多くの標本を同定するため、相当数の文献を読むうちに、種を認



図3. 北海道開発局による白亜系の調査

定する明確であるべき基準が極めて曖昧である事に気づきました。このため、新たに*Douvilleiceras*属の分類学的基準を再検討・再定義し、これまで40以上に分類された種の多くは分類学的にいわゆるシノニム(synonym: 同物異名)であるとして、7種に整理・統合できるという結論に達して報告しました(この論文は、白亜紀に関する国際科学雑誌:Cretaceous Researchに掲載受理、2018年出版予定:この記事が読まれている頃には出版されていると思います)。こうした分類群の大きな見直しに対する各国のアンモナイト研究者の批評・反応が私は今から楽しみです。

かつて、私は「10年同じことを続ければ、その道の専門家になれる」と言われたことがあります。研究では、さらに偶然の発見や幸運がよりよい成果をもたらす必要条件ではと感じています。

研究論文は幸運の産物!?



教育学部
社会教育学科
二上 政夫

私は本学の教員に就任して、早くも30年の月日が過ぎようとしています。その間、一貫して調査・研究を続けてきた研究テーマの一つに「中生代白亜紀アンモナイトの分類学的研究」があります。

そもそも、分類学とは、多種多様な生物をある分類基準(形態的・解剖学的特性や遺伝子の塩基配列の違いなど)に従っ

て属種を命名または決定し、さらに類似した形質を基に整理して系統的にグループ化(分類階級)していく基礎分野の学問です。しかし、アンモナイトの分類では、現生生物のように分類基準になり得る鰓や生殖器官などの軟体部が保存されていないため、殻の形態的な特徴や変異の幅の検討を基に分類が行われます。

アンモナイトの分類学的研究の歴史は、ヨーロッパ、特に英・仏・独国を中心として19世紀初頭から行われており、新種の命名と共に形態の特徴や他種との比較検討が記載論文として報告されてきました。このため、分類の研究をするには、1800年代の文献を見る必要が生じます(この時代の実物の文献を入手することは極めて困難なので、かつては文献複

写にマイクロフィルムが使われていました。その後、紙媒体のいわゆるコピーが出来るようになり、最近の一部ですが、PDFファイルでネット上からも入手出来るようになっています(良い時代です)。なお、最近、記載論文では、命名規約上の公文の言語指定(英・仏・独・伊・



図1. カナダ・クインシャーロットでの調査

新任教員紹介

2017年度に本学へ着任された教員をご紹介します。

文学部史学科 講師



中園 有希
なかその ゆき

はじめまして。中園有希と申します。今年4月に史学科に着任し、新設の教職センターの一員として、中高教職課程の授業を担当しております。

私の専門は教育学です。特にドイツの教科書や教科書研究の豊かさに深く魅了され、卒業論文からずっと研究を続けています。子どもとモノや事実との出会いを媒介し、教師の教授活動を支える教科書の可能性について、今後も考えていきたいと思っています。

教育学という学問の良さは、人生において経験したことや回り道がすべて、いつしか自分の(願わくは学問的な)豊かさとして返ってくる点にあると思っています。教師を目指す皆さんも、回り道を恐れず、また自分を豊かにする経験を学生時代に沢山していただけたらと思います。

文学部日本文化学科 講師



千野 裕子
ちの ゆうこ

日本文化学科に赴任しました千野と申します。古典文学、とくに平安時代を中心とした王朝物語文学の研究をしています。

王朝物語文学といえば『源氏物語』が最も有名でしょう。高校の古典の教科書にも「日本古典文学の最高傑作」などと書かれていることがあり、私も大学に入るまでそれを信じていました。しかし、大学での勉強を通して、『源氏物語』以外にも面白い作品がたくさんあることを知り、そうした少しマイナーな作品たちの面白さを解き明かして、多くの人に魅力を伝えたい!.....と思っていたうちに、研究の世界に入っていました。

授業では、なるべく多くの作品を扱うように心がけています。おそらくは名前を聞いたこともなかったであろう物語を、学生が「面白い!」と言ってくれた時が、私の何より嬉しい瞬間です。

教育学部幼児教育学科 講師



江村 綾野
えむら あやの

はじめまして。江村綾野と申します。大学卒業後は青少年団体に就職、第1子の出産と職場での地域子育て支援活動をきっかけに保育・幼児教育に興味を持ちました。その後保育士資格を取得し、社会人大学院生として保育・児童学を学びつつ、保育現場と保育者養成の二足の草鞋を長らく履きました。

幼児教育学科では、保育内容・幼児理解・保育実習など、資格や免許に関連する科目を担当しています。発達心理学の視点から子育て支援の実践や保育者養成が主な研究テーマです。また、わらべうたや手作りおもちゃなどを通じた保育実践や方法にも関心があります。

保育の仕事は子どもの成長と共に自分自身も成長することのできる素晴らしい仕事です。保育者を志す学生のみなさんを精一杯支援したいと思います。

教育学部児童教育学科 教授



向野 光
むくの ひかる

今年度着任した特別支援教育を担当する向野光です。千葉大学付属養護学校を振り出しに、この3月まで、千葉県の特別支援学校で教員をしていました。専門は知的障害児教育法・職業教育・キャリア教育です。今回、ご縁があって本学で教員を目指す学生さんの勉強のお手伝いをするようになりました。特別支援教育はこれからの教育の大きな柱の一つです。多くの皆さんがしっかりとした特別支援の考え方をもちて教壇に立てるようにしていきたいと思っています。私の大切にしている言葉は「春風化雨」です。暖かな春の風、大地を潤す適度な雨、転じてよい教育が行われている様を表します。川村で学び、子どもたちにとって一番よい教育ができる教員をめざし、がんばっていきましょう。

教育学部児童教育学科 准教授



矢田 訓子
やだ さとこ

はじめまして、教育学部児童教育学科の矢田です。専攻は教育思想史、授業は教育原理などを担当しています。この領域では、歴史的な思想家プラトンからルソー、デュイなどの教育観について時代背景を踏まえながら理解していきます。その結果、現在の私たちの教育観が明らかになり、混線している考え方を整理できるようになります。そしてそれがこの領域の醍醐味でもあるので、学生の皆さんにもそんな経験をたくさんしてほしいと思います。

今年の4月に着任してから時間があっという間に過ぎていきます。充実した毎日です。この原稿を書いている11月は卒業論文の提出に向けて4年生のゼミ生5名と夜遅くまで頑張っています。学生の皆さんには、卒業後も自由になややかに活躍してほしいと思います。これからどうぞよろしくお願いいたします。

生活創造学部観光文化学科 准教授



小堀 貴亮
こぼり たかあき

今年度より着任いたしました、小堀貴亮と申します。「観光地理学」「観光文化論」を専門とし、特に温泉地や歴史文化観光地をフィールドとして研究しています。私自身の観光教員としてのキャリアは、2000年に大分県別府市からスタートしておりますが、実は同年に本学観光文化学科も誕生しております。当時はまだ観光学科などほとんどない中、日本初の「観光文化学科」誕生に、「観光文化学者」を名乗る者として、羨望の眼差しで見つめていた記憶があります。そして今、あの時の夢舞台の一員となれたことに運命と誇りを感じています。次は学生達の夢を叶えるべく、精一杯努めさせて頂く所存でございます。これからどうぞよろしくお願い申し上げます。

生活創造学部生活文化学科 講師



齋藤 美重子
さいとう みえこ

はじめまして。今年度より生活文化学科に赴任した齋藤美重子と申します。大学卒業後、一般企業に勤め、結婚・出産を経て財団法人で豊かな食生活を推進させるべく、食の指導と書籍出版に携わってきました。その中で教育の重要性を改めて感じ、大学院に入り直しました。大学院では生活を取り巻く諸課題と公共政策、家庭科教育について学び、「食」「農業」「環境」を有機的に結ぶ教育について研究してきました。今後取り組んでいきたいテーマは、国連の持続可能な開発目標 (SDGs: Sustainable Development

Goals)に教育がどのように関わっていけるのか、「誰も置き去りにしない社会」の実現に向けて、理論と教育・実践を融合させた研究をしたいと思っています。

【学生に伝えたいこと】
様々な情報が溢れ、興味のある情報だけ手に入れることができる時代ですが、そうした情報に踊らされることなく、深くCritical Thinking (批判的思考) して、ホラティウスの詩にあるように「一日の花を摘んで」ください。

生活創造学部生活文化学科 助手



依田 菜那子
よだ ななこ

退職教員・名誉教授 ～2017年度～

【退職】本学を退職する教員をご紹介します。皆様のご健康とご活躍をお祈り申し上げます。

福士 顕士	教育学部児童教育学科学科長 教授	近藤 光江	教育学部幼児教育学科 教授
永井理恵子	教育学部幼児教育学科学科長 教授	藤田 節子	教育学部社会教育学科 教授
柳澤 安雄★	教育学部幼児教育学科学科前学科長 教授	小野崎康裕	生活創造学部生活文化学科 教授
西岡 祥文	生活創造学部観光文化科学科前学科長 教授	坂口 武洋	生活創造学部生活文化学科 教授
原田 耕平★	教育学部児童教育学科 教授	林 正之	生活創造学部生活文化学科 教授
	元情報コミュニケーション学科学科長	及川 祥平	文学部日本文化学科 講師
矢野 重典	文学部心理学科 教授	シャーロット・ゴフ	文学部国際英語学科 助教

★特任教授就任予定

【名誉教授】名誉教授の号を授与されます。

荻原 延元 / 小野崎康裕 / 坂口 武洋 / 西岡 祥文 / 西村 和子 / 林 正之 / 福士 顕士

新刊紹介

研修医・医学生のための 症例で学ぶ栄養学



生活文化学科 教授
今井 久美子 共著

出版社：建帛社
発行年：2017年3月

中世の〈遊女〉 —生業と身分— (プレミア・コレクション)



史学科 准教授
辻 浩和 著

出版社：京都大学
学術出版会
発行年：2017年3月

日記で読む 近現代日本政治史 (史料で読み解く日本史)



副学長 教授
西川 誠 共著

出版社：ミネルヴァ書房
発行年：2017年4月

生涯発達臨床心理学 —心理・保育・教育・医学からの支援—



心理学科 教授
蓮見 元子 編著
心理学科 教授
北原 靖子 共著
児童教育学科 教授
尾見 敦子 共著

出版社：大学図書出版
発行年：2017年6月

15世紀ブルゴーニュ の財政 —財政基盤・通貨政策・管理機構—



史学科 教授
金尾 健美 著

出版社：知泉書館
発行年：2017年7月

東方キリスト教 諸教会 —研究案内と基礎データ—



史学科 准教授
辻 明日香 共著

出版社：明石書店
発行年：2017年8月

教職のための 道徳教育



日本文化学科 教授
内海崎 貴子 編著

出版社：八千代出版
発行年：2017年9月

教師教育研究 ハンドブック



日本文化学科 教授
内海崎 貴子 共著

出版社：学文社
発行年：2017年9月

女房たちの王朝物語論 —「うつほ物語」「源氏物語」「狭衣物語」—



日本文化学科 講師
千野 裕子 著

出版社：青土社
発行年：2017年10月

テンプレートで学ぶはじめての 心理学論文・ レポート作成



文学部長 教授
鶴沼 秀行 共著

出版社：東京図書
発行年：2017年12月

品川弥二郎 関係文書 8



副学長 教授
西川 誠 共著

出版社：山川出版社
発行年：2017年12月

年間行事

4月

- 1日 入学式 川村学園大講堂(目白)
6日 新入生オリエンテーション
国英 大エルミタージュ美術館展
史学 旧岩崎邸庭園／
東洋文庫ミュージアム／
六義園／
サントリー美術館 (4/22)
心理 我孫子クラブ
日文 江戸東京博物館／浅草
幼児 葛西臨海水族園／
夢の島熱帯植物園
児童 江戸東京博物館／浅草
生活 味の素の文化センター／
アクアパーク品川
観光 箱根小涌園天悠
12日 川村学園創立記念日
17日 六華会奨学生授与式
29日 第8回アビシルベまつりに生活文化学科が参加

- ボランティアセンター設立
■教職センター設立
■観光文化学科産学連携事業
①藤田観光(株) ②春秋航空日本(株)他
■SA主催・新入生対象スタンプラリー
(4～5月) (我孫子)

5月

- 18日 大学は美味しい!! フェア(新宿
高島屋)に生活文化・国際英語
23日 学科が参加
28日 我孫子市近隣センターこもれび
フェスタ2017に児童教育学科が
参加



6月

- 28日 学生総会



SA主催・ストレッチでリフレッシュ (我孫子)

7月

- 7日 学友会主催・七夕抽選会(我孫子・目白)
22日 我孫子市近隣センターこもれび
夏祭りに児童教育学科が参加
25日 茨城県と「UIJターン就職に関する
協定」を締結



- 29日 心理相談センター無料相談会開催

8月

- 3日 SA主催・バーベキュー大会(我孫子)
10日 白樺派のカレーに「川村学園女子
大学バージョン・チキン」誕生



我孫子市自慢の大正ロマンの味「白樺派のカレー」に生活文化学科が開発したトマトジャムが隠し味として入ったバージョン・チキンのレトルトカレーが登場。白樺派のカレーはみそが隠し味、そこにトマトジャムの甘さと酸味が加わり、隠し味の相乗効果が生まれ、そのまま食べてもおいしい本格的なスパイシーカレーに仕上がった。

- 日本文化学科オリジナルキャラクター誕生 大和ふみか&きなこ



- 保育士資格取得特例科目講習

- ①乳児保育 7/31～8/2
②保育と食と栄養 8/3～5
③福祉と養護 8/7～9
④相談支援 8/24～26

9月

- 28日 第50回日本女子オープンゴルフ
選手権
1日 (場所:我孫子ゴルフ倶楽部)
「あびこ魅力発信ブース」において学生
がおそろいのKawajoオリジナルサンバ
イザー・エプロン・ポロシャツで白樺派
のカレー販売、我孫子市のPRに協力



10月

- 21日 鶴雅祭「JOIN JOIN JOIN」
1日目



- レシテーション&スピーチコンテスト 他
保護者会 (我孫子キャンパス)
講演「未来を拓く!多様化する社会
における女性のキャリア形成」
株式会社マイナビ 千葉支社長
井上 慶子氏

- 22日 鶴雅祭「JOIN JOIN JOIN」
2日目
豊永利行Talk Show 他

- 27日 学友会主催・ハロウィンパーティ
(目白)



11月

- 2日 熊谷園子学長・星野順一郎我孫子市長と対談



我孫子市ふるさと産品のひとつである白樺派のカレー第4弾に川村学園女子大学バージョン・チキンカレーが誕生し、第50回日本女子オープンゴルフ選手権「あびこ魅力発信ブース」で白樺派のカレーの販売に協力。白樺派のカレー普及会とのコラボレーションを通して、産学連携をどのように深めていくかを話し合った。

- 19日 保護者会 (目白キャンパス)
講演「保護者のための就職応援講座」
株式会社リクルートキャリア 大学支援推進部首都圏グループ 土橋 堅斗氏
「大学生プレゼンテーションコンテスト 第1回」
川村学園女子大学目白観光文化研究所主催



大学生による研究成果やインターンシップ、産学連携などの活動に関するプレゼンテーションの能力を競うコンテストを開催

- 20日 創立者記念日
23日 我孫子市合唱祭に児童教育学科が参加
27日 人口減少に関するセミナー
政策研究大学院大学 高田寛文氏
千葉県総合企画部制作企画課主催

12月

- 3日 「温泉ソムリエセミナーin川村学園女子大学目白キャンパス」
温泉ソムリエ協会・川村学園女子大学目白観光文化研究所主催



- 6日～7日 卒業論文提出
8日 『ちばI・CHI・BA』川村学園女子大学デー
11/18(土)～12/16(土)まで東京駅丸の内側JPタワーKITTE開催
「あじさいねぎの野菜ドレッシング」「白樺派のカレー (川村バージョン)」「オリジナルジャム&ソース」「黒にんじんピクルス」といった生活文化学科開発商品を販売 8日は学生と教職員が商品説明に参加

- 13日 SA主催・クリスマスイベント
バスボム作り

- 15日 学友会主催・クリスマス会(目白)



- 20日 児童教育・幼児教育学科クリスマスコンサート(我孫子)

選択必修科目「音楽」と「幼児音楽指導法」の受講生が附属保育園5歳児クラスの子どもたちを招いて学習の成果を披露するコンサートを開催



- 21日 学友会主催・クリスマス会(我孫子)



- 22日 スーパーカスミとの産学連携によるベーカリーコラボ商品発表
生活文化学科の学生が考案した「かなえるカレーパン」「プリュレムーン」など6種類のパンがフードスクエアカスミ新木駅前店(我孫子市)にて定番販売

1月

- 10日 イオンベーカリーとの産学連携による新作パンを発表
生活文化学科の学生が授業で考案したパンが、プロの手でブラッシュアップ!「かぼちゃのあんぱん」「くるくるバセリ」の2種類が、千葉・茨城・神奈川・埼玉イオン〈カンテポーレ〉一部店舗にて約2ヶ月間の限定販売
13日～14日 大学入試センター試験
17日～18日 修士論文提出
21日 一般I期入試

2月

- 3日 一般II期入試
7日～8日 学内合同企業研究会
(我孫子)



- 14日～15日 学内合同企業研究会
(目白)



- 17日 一般III期入試

3月

- 3日 一般IV期入試
21日 学位記授与式
川村学園大講堂(目白)
卒業パーティー
ホテル椿山荘東京